

【背景】

国立公園の利用拠点では、インバウンド対応や個人旅行など旅行ニーズの変化への対応が遅れ、廃屋化した建物が自然の魅力を著しく妨げている。また、自然環境と地域独自の文化資産が相まった魅力を旅行者が体感できていない。

【課題】

- 地域主導の取組に加え、外部の民間事業者によるワーケーション事業など新たな経済活動の意欲を積極的にとらえて利用拠点を上質化する施策を強化していく必要がある。
- 既存メニューに加え、無電柱化などの景観改善を地方から求められているが、十分対応できていない。

【事業内容】

I 利用拠点計画策定

地元自治体（市町村）が主体となり、環境省や既存民間事業者等と協議して策定

＜継続＞

- | | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 廃屋の撤去
民間事業者の導入を前提とした撤去 ④ 既存施設の観光資源化
利用が停止又は利用機会が減少した施設のインバウンド受入環境整備を前提とした施設の機能転換または強化
内装及び設備（文化資源活用または体験・学習ツアーと連携して実施） | <ul style="list-style-type: none"> ② インバウンド機能向上
Wi-Fi、多言語サイン、トイレ洋式化 | <ul style="list-style-type: none"> ③ 文化的魅力の活用
地域文化が体感できるまちなみ改善 |
|---|--|---|

II 事業

⑤ ワケーション受入事業支援＜新規＞

ウィズコロナ・ポストコロナの新たな時代にふさわしい、「3密」を避けられる国立公園ならではの滞在環境を実現するため、ワーキングスペースを設ける空き家など既存施設の改修・機能転換や、感染防止に資する改修を支援。



ワーケーション受入事業の支援により、滞在環境等を上質化し、「3密」を避けられる国立公園での滞在を促進

⑥ 無電柱化など引き算の景観改善＜新規＞

無電柱化やアスファルト舗装面の緑地化、通景伐採など「引き算」の取組により、個々の建築物にとどまらない、拠点内の面的景観や、山・湖への眺望景観を総合的に改善。

【事業実施スキーム】

直轄事業（Ⅱ①のみ）、
補助事業（補助率：1／2）

【効果】

外国人旅行者の満足度向上、滞在時間、リピーター増加
+ まずは国内旅行者増による地域経済と雇用の下支え・回復